



第51号

本紙は、ピースボート災害ボランティアセンターが、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙です。毎月10日、25日発行。

仮設きずな新聞再開のご挨拶

いつも仮設きずな新聞を楽しみに読んでくださった皆様、お待ち致しました！仮設きずな新聞、今号から再開致します！

休刊中、2月に行なった読者アンケートをゆっくり読ませて頂きました。仮設きずな新聞を継続して欲しいですか」という設問に、「ぜひ」と続けた方が多いと答えてくださいました。84%もいらっしゃるやいなや、理由を記入する欄には、「色々な情報が載っているから」「多くの方に支えられているから」という気持ちで残された不安を解消してくれるから」と被災した人、しない人、市外からのボランティアの方々の頑張る姿は、気分が落ち込んだ時に元気にしてくれるので、「きずな新聞にいたい元気をもらえるから」など、嬉しい言葉が沢山並んでいました(アンケート結果は、本紙裏面にも掲載しています)。もちろん、厳しいご意見やご要望も多数頂きました。でもまずは「仮設きずな新聞には、読者がいる」という事実。このことが私たちの胸に強く響き、再開を決意するに至りました。

新しい新聞は...

皆様からの声を聴き、2つのコンセプトを設定しました。
1) 仮設住宅暮らしに役立つ情報(復興、地域、生活、健康、街)を発信する新聞
2) ココロが元気に

なれる新聞

この2つを実現するために、今後は、市内で活動する他のボランティア団体等と一緒に、新しい編集体制で新聞を作っていきます。新しく編集に加わる団体・メンバーの紹介を、次ページに掲載しましたので、合わせてお読みください。

募集しています

仮設きずな新聞の配布を手伝ってくださる方、記事の執筆を手伝ってくださる方、仮設きずな新聞を置いてくださるお店等、いつでも募集しています！「こんなイベントがあるから、取材して欲しいん」 「わっぱかクッキングに、こんなレシピどうかしら？」 などのお申し出も大歓迎です。どうぞお気軽に、本紙裏面の連絡先にご連絡ください。

はじめましての皆様へ(主に雄勝、桃生、河内、河北、北上地区の方) こんにちは！ピースボート災害ボランティアセンター(以下、PBV)です！

PBVでは2011年10月から今年3月まで、無料情報紙「仮設きずな新聞」を発行し、本庁や牡鹿地区などの仮設住宅に配布してきました。仮設住宅の住みこなし術や地域のハッピーニュース、イベント情報や復興情報などを発信しています。

リニューアル再開を機に、これまで配布出来ていなかった地域にも新聞をお届けしたいと、今号より配布させて頂きました。多くの方に楽しんで頂ける新聞を目指していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します！

まずはお気軽にお電話ください

アルバイト募集!

2名/40歳まで

- ◎仕事内容 事務作業(パソコン入力等)
- ◎勤務時間 平日8:30~17:00 から応相談
- ◎勤務日数 週3日以上
- ◎時給 800~900円
- ◎勤務地 渡波

応募方法
電話連絡の後、面接(履歴書をご持参ください)

Tel: 0225-24-1519
Fax: 0225-24-1547
Mail: info@suenaga.co.jp

末永海産(株)
担当: 今井・末永
石巻市塩富町2-5-73

ISHINOMAKI 金曜映画館
映画「どこまでもいこう」
チケットを10名様にプレゼント!

ISHINOMAKI 金曜映画館とは?
毎月、みやぎ生協アイトピアホール(中央2)で上映される、市民のための映画館です。

7月6日(土)19時~アイトピアホールにて上映!

応募方法 抽選で10名様に、金曜映画館「どこまでもいこう」の観覧チケット(一枚800円)をプレゼントします。ご希望の方は、(株)街づくりまんぼうまでお電話、FAX、メールにてご連絡ください【締切:6月27日(木)】。※お一人様2枚まで。抽選の結果は、6月28日以降、当選者様へ直接ご連絡いたします。

お申し込み先 株式会社街づくりまんぼう(街なか創生協議会事務局)
TEL: 0225-25-5169 FAX: 0225-25-5179
E-mail: kariya@man-bow.com (担当: 荻谷)



街づくりまんぼう

こんにちは！街づくりまんぼうの苧谷（かりや）と申します。仮設きずな新聞第34号より「まちなか情報局」を担当させていただきます。おりました。まちなか情報局では、石巻の街なかで今どのようなまちづくりが進められているのか、これからのような街になっていくのかについて、できるだけリアルタイムな情報をお届けして参りました。再び始まったこの新・仮設きずな新聞でも、引き続き街なかの「今」をお伝えして参りたいと思っております。

ご存知のように、震災後街なかは閉店したお店も多く、建物取り壊しも進み、更地や空き店舗が目立って見え、昔のような賑わいはありません。しかしながら、残ったお店の中には、「石巻の魅力は街なかにある！ぜひ街なかを訪れてほしい！」と、石巻元来の魅力の磨き上げや新たな魅力づくりに取り組んでいる方が多くいます。また、石巻には震災後ボランティアなどの活動をを通して、新たに石巻に住むようになった「ガチ市民」もたくさんいます（何を隠そう、私もその一人なのです）。もともとのお身は名古屋です。そういつた方々の取り組みについてご紹介し、みなさまに少しでも街なかを身近に感じてもらえれば幸いです。

ワクワクするまち、楽しめるまちを目指してこれから変わっていく街なかを、私も精一杯みなさまにお届けしたいと思っております！まちの様子はずいぶん変わりますが、温かい目で見守って頂き、みなさまからの「こうあったらいいのでは？」といったご意見・ご感想などぜひお寄せください。どうぞよろしくお願いたします。（街づくりまんぼう かりや）

からこるステーション

この度、仮設きずな新聞に記事を掲載させていただきます。一般社団法人 震災こころのケア・ネットワーク「からこるステーション」事務局の高柳と申します。これから仮設きずな新聞で、「こころのケア・こころの病・ストレスケア」について、わかり易く役に立つ情報を発信していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

私たち震災こころのケア・ネットワークみやぎは、2011年の4月より石巻こころのケアチームを経て、同年10月、石巻駅前に「からこるステーション」を開所し、石巻周辺地域にお住まいの方々の仕事をされている方々のこころのケアを中心とした健康相談などの活動を行っています。「からこる」とは「からだ」と「こころ」の意味であり、「ステーション」

には石巻駅前にあるというのと、みなさんに駅のように気軽に利用してほしいという意味が込められています。からこるステーションでは、こころの問題について訪問相談や来所相談、電話相談などが出来ます。ご自身のこと、ご家族・ご友人のことなど、専門のスタッフ及び医師が対応させていただきます。一緒に解決の方法を探しながら、良い方向に向かえるよう支援させていただきます。おたいていあります。なお、相談はすべて無料となっております。こころの問題やこころの病についてご相談がある方は、一人で悩まず、ぜひからこるステーションを利用して相談してください。一人でも多くの方が笑顔になれる様、からこるステーションは、長期的に活動を続けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。記事をお楽しみに！（からこるステーション たかやん）

6月のイベント情報...

6/16 (日)

7:00~9:00 ふれあい朝市
場所：石巻駅前にぎわい交流広場
問合せ：石巻観光協会 (0225-98-6448)

10:00~15:00 手作り市nomaki
場所：石巻まちなか復興マルシェ
問合せ：tedukuri.ichinomaki@gmail.com

6/21 (金) 18:30~20:00
認知症サポーター養成講座
～認知症を正しく理解し接するため～
場所：石巻専修大4102教室
申込み：仮設自治連合会 (0225-22-0223)

6/23 (日) 14:00~16:00
石巻市民交響楽団
「カンタータ大いなる故郷石巻」(合唱・舞踊付)
場所：石巻市総合体育館
チケット：A席2,000円、B席1,500円
問合せ：090-2847-4921 (山田)

7/6 (土) 19:00~
ISHINOMAKI金曜映画館『どごまもいごう』
場所：みやぎ生協文化会館アイトピアホール
チケット：一般800円
高校生以下500円
問合せ：ISHINOMAKI2.0 (0225-25-4953)

本紙1面に
チケットプレゼント
情報あり!



キャンパス東北

皆さん、こんにちは！私たちキャンパス東北は、震災後の2011年3月20日から気仙沼、石巻を中心に活動をしてきました。母体は神奈川県藤沢市にある「全国訪問ボランティアナースの会 キャンパス」という任意団体です。震災直後から看護師を中心として、「まずは環境整備が基本」という考えのもと、石巻・気仙沼で公衆衛生を重視、地域の方々が自ら行動できるように導くため、避難所に寝泊りし、共に生活し、地域に寄り添う活動を行っています。仮設住宅に生活の場が移行してからは、牡鹿半島を中心に、看護師やリハビリスタッフがお宅訪問や健康相談会などを行ってまいります。活動を通して、一人でも多くの方に健康に意識を向けて頂き、少しでも早く安全・安心な生活を取り戻すための一助になればと思っております。また、2012年1月から牡鹿半島で民家を借り、コミュニティサロン『おらほの家』を開始しました！地域全体を巻き込んだ！「その人がその人らしく生きる」ための憩いの場作りを行っていきけたらと思っております。

仮設きずな新聞を担当するのは、現地スタッフの野津裕二郎(通称ゆうじろう)です。出身は神奈川県平塚市、七夕が有名ですね。私は震災後の9月から石巻に来て、美味しい海産物と素敵な住民さん、豊かな自然と関わる事が出来て、日々充実した生活を送っております。仮設きずな新聞を通して、気になる「健康」や「運動」などの豆知識を発信していきたいと思っております。皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。私達は石巻が大好きです！
(キャンパス東北 ゆうじろう)

石巻仮設住宅自治連合推進会

初めまして、西本健太郎と申します。現在みらいサポート石巻に所属し、石巻仮設住宅自治連合推進会のサポート業務を担当させていただけます。石巻仮設住宅自治連合推進会は、石巻市内の仮設住宅団地自治会が主導し、市・社協・警察・消防等の公的機関や支援団体で構成する住民団体です。略して「自治連(じちれん)」と覚えて下さい。

仮設住民の「安心・安全な住みよい環境づくり」に向けて建設的な取り組みを行うことを目的として、2011年12月9日、前身の「石巻仮設住宅自治連合会」が発足しました。以来、仮設自治会間の情報共有を通して課題解決に取り組み、外部組織とのパイプ役を担ってまいりました。2013年5月現在、市内134団地(7

153戸)の内、36団地(3852戸)に加盟いただいています。本格的な復興公営住宅移転が近づく今、これまで以上に仮設住民の声を届けていくため、広く加盟を呼び掛けていきたいと考えています。次号からは「出張自治連だより」と銘打ち、各団地から上がってきた情報や活動報告、イベント告知などとしてまいります。どうぞよろしくお願致します。(石巻仮設自治連合推進会 けんたろう)

■認知症サポーター養成講座■
 専門講師を招き、認知症の基礎知識や、認知症の方との接し方を学ぶ無料講座です。どなたでもご参加下さい。
 ■日時：6月21日(金) 18:30～ 約90分間
 ■会場：石巻専修大学4102教室(4号館1階)
 ■申込：①団地名(団体名)、②代表者名、③人数を下記までお知らせ下さい。
 ■主催：石巻仮設住宅自治連合推進会
 事務局 Tel/Fax0225-22-0223 《6/19(水)×切》

復興大学

●団体紹介
 「復興大学」とは、大学・高専を中心に地元の学術機関21校が加盟している学都仙台コンソーシアムが東北復興のために一丸となり、人材育成と技術支援を柱に実施案を立案し、文部科学省の大学復興センター構想の一つとして承認されたものです。

復興大学は「復興人材育成教育コース」教育復興支援「地域復興支援ワンストップチーム」及び「災害ボランティアアステーション」の4事業からなります。この中の地域復興支援ワンストップチームは石巻センター(自称「何でも屋」)を務めています。地域復興支援とは、地域の住民、企業が元気になることのお手伝いと考えています。この活動の中から皆さんにお知らせしたいと思う事を記事にしていきたいと思っております。
(復興大学 東のイトウ)

復興大学は「復興人材育成教育コース」教育復興支援「地域復興支援ワンストップチーム」及び「災害ボランティアアステーション」の4事業からなります。この中の地域復興支援ワンストップチームは石巻センター(自称「何でも屋」)を務めています。地域復興支援とは、地域の住民、企業が元気になることのお手伝いと考えています。この活動の中から皆さんにお知らせしたいと思う事を記事にしていきたいと思っております。
(復興大学 東のイトウ)

●自己紹介
 【氏名】伊東孝浩
 復興大学・地域復興支援ワンストップチーム石巻センターでコーディネーター(自称「何でも屋」)を務めています。地域復興支援とは、地域の住民、企業が元気になることのお手伝いと考えています。この活動の中から皆さんにお知らせしたいと思う事を記事にしていきたいと思っております。
(復興大学 東のイトウ)

仮設きずな新聞 読者アンケート 集計結果

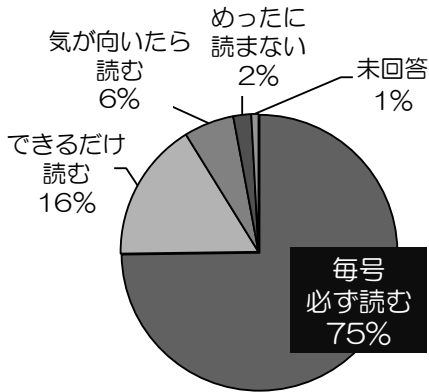
2月に実施した読者アンケートの集計結果を、抜粋してお伝えします。今回寄せられた貴重なご意見、ご要望を、今後の紙面づくりに活かしていきたいと思っております。ご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました！

●アンケート実施期間
2013年2月14～28日
(第47号に折込)

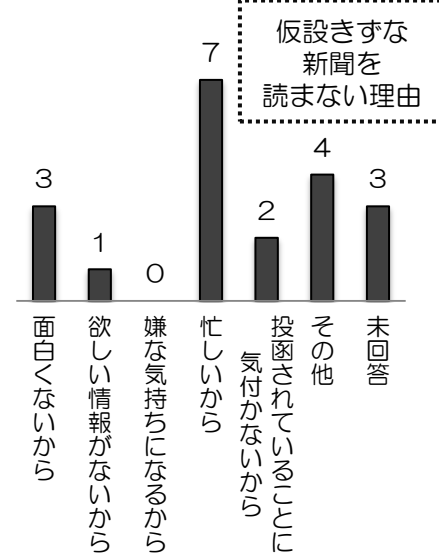
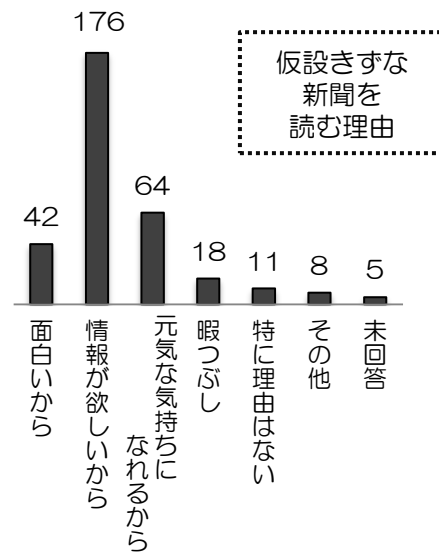
●アンケート実施規模
-98団地(本庁73団地、河南6団地、
牡鹿18団地、雄勝1団地)
-5016世帯

●回収
-枚数：238枚
-回収率：4.7%

●どれくらいの頻度で仮設きずな新聞を読みますか？

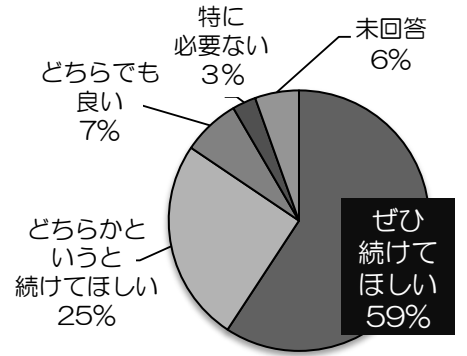


●仮設きずな新聞を積極的に読む／読まない理由は？(複数回答可)

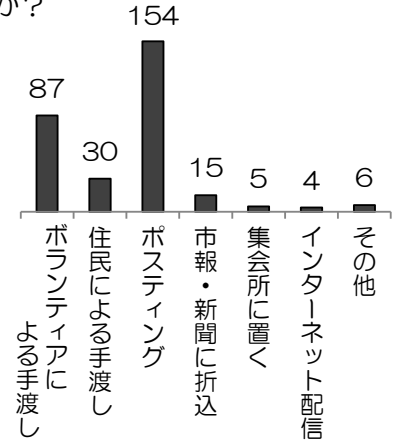


アンケートの集計結果(全て)は下記サイトからも見ることができます。
<http://pbv.or.jp/ishinomaki-psen/newspaper/>

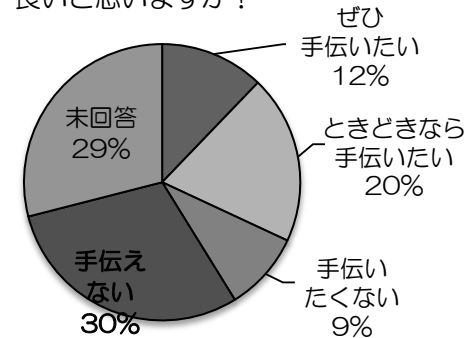
●仮設きずな新聞をこれからも続けてほしいですか？



●どのような配布方法が良いですか？



●配布を手伝って配布を手伝っても良いと思いますか？



編集後記

皆様、お久しぶりです！

休刊直前の第50号を発行してから約3ヵ月。たくさんの方のご協力と応援と助言と、そして「新聞がなくなって淋しい…」という声に押されて、ようやくここまで来ました。しかも、ただの再開ではありません。石巻市内で活動する団体が、一緒に記事を書いてくれることになりました。石巻の地に根差し、医療や街づくりの分野で活躍する団体の面々なので、これまでよりさらに役立つ、知りたい、おもしろい情報をお届けできると思います。

パワーアップした仮設きずな新聞、どうぞお楽しみに！

(仮設きずな新聞編集長 あき)

■仮設きずな新聞とは…

ピースポート災害ボランティアセンターが2011年10月より、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙。「仮設住宅での暮らしに役立つ情報(復興、地域、生活、健康、街)」を届け、「ココロが元気になる新聞」を目指して制作。毎月10日、25日発行。毎号約7,500部発行。

■仮設きずな新聞は以下の場所でも手に入ります。

いしのみ☆キッチン、石巻しみん市場、IRORI石巻、石巻まちなか復興マルシェ、かめ七呉服店、からころステーション、観慶丸、ヤフー石巻復興ベース、雄勝店こ屋街、道の駅「上品の郷」、復興大学、ピースポートセンターいしのみまき

仮設きずな新聞の配布に協力して下さる方、記事を書いて下さる方、新聞を置いて下さるお店などを常時募集しています！お気軽にご連絡ください！

編集部
連絡先

ピースポートセンターいしのみまき(10:00-18:00/金曜定休)
〒986-0824 石巻市立町1丁目5-21 0225-25-5602
Email: kasetasukizuna@pbv.or.jp

■発行元
■協力

ピースポート災害ボランティアセンター
石巻仮設住宅自治連合推進会/キャンパス東北/震災こころのケア・ネットワークみやぎ/街づくりまほほう/復興大学

■編集長
■配布統括
■デザイン

岩元 暁子
田上 琢磨
矢野 瑛子/妙本 咲季

■編集委員

伊東 孝浩/苧谷 智大
高柳 伸康/西本健太郎
野津裕二郎